



## 2026年3月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

2026年5月15日

上場会社名 マルシェ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 7524 URL <https://www.marche.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 洋嗣  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 上田 慶太 TEL 06-6624-8100  
 定時株主総会開催予定日 2026年6月27日 有価証券報告書提出予定日 2026年6月29日  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2026年3月期の業績 (2025年4月1日～2026年3月31日)

## (1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期	4,767	4.1	△29	—	△33	—	△45	—
2025年3月期	4,581	△2.0	44	△51.5	32	△65.9	34	0.1

  

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2026年3月期	△7.13	—	△8.2	△1.1	△0.6
2025年3月期	1.46	—	8.7	0.9	1.0

(注) 2025年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2026年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期	2,866	701	24.5	38.70
2025年3月期	3,426	410	12.0	12.07

(参考) 自己資本 2026年3月期 701百万円 2025年3月期 410百万円

(注) 1株当たり純資産については、純資産の部の合計額から当社が発行する普通株式と権利関係の異なるA種種類株式に係る払込金額、優先配当額を控除して算定しております。

## (3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2026年3月期	△76	△137	△473	1,429
2025年3月期	△82	△113	△224	2,116

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭			
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0	—	0.0
2026年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0	—	0.0
2027年3月期(予想)	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。2027年3月期の普通株式に係る配当につきましては、現時点で未定です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式(非上場)の配当状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

### 3. 2027年3月期の業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,500	4.2	14	—	12	—	10	—	△0.16
通期	5,000	4.9	107	—	103	—	60	—	3.67

(注)2027年3月期業績予想の1株当たり当期純利益については、A種種類株式に係る配当金額(2027年3月31日時点で適用される8.0%により計算)を控除した金額を、当会計年度末の普通株式の発行済株式数から自己株式(522,163株)を控除した10,028,237株の株式数で算定しております。

#### ※ 注記事項

##### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| ④ 修正再表示              | : 無 |

##### (2) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期	10,550,400株	2025年3月期	8,550,400株
② 期末自己株式数	2026年3月期	522,163株	2025年3月期	522,163株
③ 期中平均株式数	2026年3月期	9,611,799株	2025年3月期	8,028,262株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料2ページ「1. 経営成績等の概況（1）当期の経営成績の概況」をご覧ください。

○種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

(A種類株式)

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	—	—	80,000.00	80,000.00
2026年3月期	—	—	—	80,000.00	80,000.00
2027年3月期(予想)				80,000.00	80,000.00

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	6
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	6
(4) 今後の見通し .....	7
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	8
3. 財務諸表及び主な注記 .....	9
(1) 貸借対照表 .....	9
(2) 損益計算書 .....	11
(3) 株主資本等変動計算書 .....	12
(4) キャッシュ・フロー計算書 .....	14
(5) 財務諸表に関する注記事項 .....	15
(継続企業の前提に関する注記) .....	15
(持分法損益等) .....	15
(セグメント情報等) .....	15
(1株当たり情報) .....	15

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当事業年度における我が国経済は、企業収益及び雇用環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移したものの、海外情勢の不安定化や物価上昇の影響により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、個人消費やインバウンド需要の回復傾向が見られる一方、原材料価格・光熱費の高止まり、人件費の上昇及び人手不足の影響等により、引き続き厳しい経営環境が継続しております。

このような環境の中、当社は当期の重点戦略として

「業態変更の促進」

「新規出店の促進」

「店舗活性化の促進」

の3項目を掲げ、収益基盤の再構築と将来成長に向けた施策を推進してまいりました。

#### ①「業態変更の促進」

当事業年度においては、主力成長業態である「ハッケン酒場」への業態変更に注力し、直営店及び加盟店を合わせて19店舗の業態変更を実施いたしました。

直営店においては、ハッケン酒場福田店、ハッケン酒場原田店、ハッケン酒場京田辺店、ハッケン酒場今店、ハッケン酒場北仙台店、ハッケン酒場宮町店、ハッケン酒場植田駅前店の7店舗で実施。加盟店においては、ハッケン酒場玉島店、ハッケン酒場岡山邑久店、ハッケン酒場西広島駅前店、ハッケン酒場江古田店、ハッケン酒場海田窪町店、ハッケン酒場皆生店、ハッケン酒場可部中央店、ハッケン酒場庚午店、ハッケン酒場名東八前店、ハッケン酒場茶屋町店、ハッケン酒場吉島光南店、ハッケン酒場松山平和通店の12店舗で実施いたしました。

今期は更に加盟店を中心に業態変更を推進するとともに、ブランドの定着と既存店の収益力向上を図り、成長フェーズから安定収益フェーズへの移行を進めてまいります。加えて、2026年4月より2ヶ月ごとのメニュー改定を実施するとともに、スパイシーうまカツ77円など、驚きのある価格設定による新商品の提供を進めております。

#### ②「新規出店の促進」

当事業年度においては、新規成長業態の確立に向け、主力ブランド及び新業態を中心とした出店を推進し、「やきとり ええねん」「尼崎焼そば本舗」等の新業態を中心に加盟店からの譲受2店舗を含め6店舗を出店いたしました。

「やきとり ええねん」は一昨年に3店舗を出店しました。当連結会計年度においては2年目の成長フェーズとして、関西エリアに2店舗を追加出店いたしました。ブランドカラーであるレインボーをコンセプトに、7色のレモンサワーを販売するなど、若年層を中心とした視覚的な楽しさと話題性の創出に取り組んでおります。また、看板メニューである「もも焼」に加え、関西地域に親和性の高い「どて煮」が人気を集めており、地域ニーズに即した商品展開を進めております。

新業態である「尼崎焼そば本舗」は、既存の「焼そばセンター」をリブランディングし、従来の居酒屋業態とは異なり、食事メニューに特化した店舗モデルとして展開を開始いたしました。

今期においては、2026年4月に株式会社サンライズサービスとの業務提携により、「越後つけ麺」ブランドの展開を開始しており、4月20日に愛知県に第1号店を開店し、順調な立ち上がりとなっております。今後は、居酒屋業態に加え、食事の特化したブランドの展開拡大に注力し、新たな収益基盤の構築を進めてまいります。

#### ③「店舗活性化の促進」

当事業年度においては、全社スローガンとして「1割アップ」を掲げ、既存店舗の売上高向上及びサービス力強化に取り組んでまいりました。

一昨年にモバイルオーダーを導入したことにより、店舗オペレーションの効率化は進展した一方で、お客様との接点が減少し、サービス力の低下につながるケースがあり、社内インセンティブ制度を活用し、各店舗における客単価向上及びサービス力強化に取り組んだ結果、全店売上高は前年同期比108.9%、既存店売上高は前年同期比102.1%となり、前年実績を上回る結果となりましたが、引き続き既存店の収益力向上を重要課題として取り組んでまいります。

このような取組みを行った結果、当事業年度における経営成績は、売上高は47億67百万円（前年同期比4.1%増）となりました。一方で、成長戦略の推進を目的として実施した各種施策の影響に加え、人件費及び物流コストの上昇等が収益を圧迫し、営業損失は29百万円（前年同期は営業利益44百万円）、経常損失は33百万円（前年同期は経常利益32百万円）、当期純損失は45百万円（前年同期は当期純利益34百万円）となりました。

【当事業年度の概況】

	前事業年度 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日	当事業年度 自 2025年4月1日 至 2026年3月31日	対前年同期比	
			増減額	増減率 (%)
売上高 (百万円)	4,581	4,767	185	4.1
営業利益又は営業損失(△) (百万円)	44	△29	△74	-
経常利益又は経常損失(△) (百万円)	32	△33	△66	-
当期純利益又は当期純損失(△) (百万円)	34	△45	△80	-
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)	1円46銭	△7円13銭	△8円59銭	-

【売上高の状況】

(単位：千円)

	前事業年度 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日		当事業年度 自 2025年4月1日 至 2026年3月31日		増 減	
		構成比		構成比		増減率
《料飲部門》		%		%		%
酔 虎 伝	254,356	5.6	249,943	5.2	△4,413	△1.7
八 剣 伝	1,346,020	29.4	1,558,441	32.7	212,421	15.8
マ ル ケ ン	849,601	18.5	877,756	18.4	28,154	3.3
そ の 他	586,693	12.8	622,113	13.1	35,419	6.0
串 ま ん	27,402	0.6	26,546	0.6	△855	△3.1
八 右 衛 門	79,458	1.7	48,073	1.0	△31,384	△39.5
焼そばセンター	145,783	3.2	171,137	3.6	25,354	17.4
居 心 伝	57,268	1.3	57,586	1.2	318,693	0.6
そ の 他	276,782	6.0	318,768	6.7	41,986	15.2
料飲売上高	3,036,672	66.3	3,308,254	69.4	271,582	8.9
《F C部門》						
ロイヤリティ等売上計	342,354	7.5	335,639	7.0	△6,715	△2.0
《商品部門》						
食 材 等 販 売	1,076,553	23.5	999,243	21.0	△77,310	△7.2
酒 類 等 販 売	19,696	0.4	13,644	0.3	△6,052	△30.7
食材、酒類等販売売上高	1,096,250	23.9	1,012,887	21.3	△83,362	△7.6
その他部門売上高	106,488	2.3	110,882	2.3	4,394	4.1
合 計	4,581,766	100.0	4,767,664	100.0	185,898	4.1

① 料飲部門の販売の状況

料飲部門全体の売上高は33億8百万円、前年同期比8.9%の増となりました。直営店における全店及び既存店の売上高、客数及び客単価の前年同期比は、以下のとおりとなります。

	全店			既存店		
	売上高	客数	客単価	売上高	客数	客単価
酔 虎 伝	98.3%	97.6%	100.7%	103.9%	102.5%	101.4%
八 剣 伝	115.8%	113.3%	102.2%	101.9%	98.9%	103.1%
マ ル ケ ン	103.3%	100.2%	103.1%	101.8%	98.9%	103.0%
そ の 他	106.0%	101.0%	105.0%	101.9%	101.6%	100.2%
合 計	108.9%	105.2%	103.6%	102.1%	99.7%	102.4%

(注) 既存店とは、オープン月を含め13ヶ月以上営業している店舗であります。

② F C部門の販売の状況

F C部門の売上は、F C加盟店からのロイヤリティ収入と販促物その他の販売等で、売上高は3億35百万円、前年同期比2.0%の減となりました。

その主な内訳は、ロイヤリティ収入が2億78百万円で前年同期比6.0%の減、加盟料収入は9百万円で前年同期比17.2%の減、販促物その他売上高が47百万円で前年同期比37.3%の増でありました。

③ 商品部門の販売の状況

商品部門の売上は、F C加盟店及びサプライヤーに対する食材、酒類等の販売であり、売上高は10億12百万円で前年同期比7.6%の減となりました。

その主な内訳は、食材等の販売は9億99百万円で前年同期比7.2%の減、酒類等の販売は13百万円で前年同期比30.7%の減でありました。

④ その他部門の販売の状況

その他部門売上高は1億10百万円で前年同期比4.1%の増となりました。

【業態別出退店の状況】

直営店及びFC加盟店を合わせた当社グループ全店の店舗数は265店で、前期末店舗数比較で10店減少となりました。期間中の新規出店は12店、退店は22店でありました。

		前事業年度					当事業年度				
		自 2024年4月1日					自 2025年4月1日				
		至 2025年3月31日					至 2026年3月31日				
		期首 店舗数	出店数	退店数	期末店舗数		期首 店舗数	出店数	退店数	期末店舗数	
	増減数					増減数					
直営店	酔虎伝	4	-	1	3	△1	3	-	-	3	-
	八剣伝	36	5	-	41	5	41	3	2	42	1
	居心伝	1	-	-	1	-	1	-	-	1	-
	串まん	1	-	-	1	-	1	-	-	1	-
	八右衛門	2	-	-	2	-	2	-	1	1	△1
	焼そばセンター	2	1	-	3	1	3	1	-	4	1
	マルケン	21	-	1	20	△1	20	1	-	21	1
	その他	6	3	4	5	△1	5	2	-	7	2
小計	73	9	6	76	3	76	7	3	80	4	
FC加盟店	酔虎伝	9	-	-	9	-	9	-	1	8	△1
	八剣伝	183	1	14	170	△13	170	3	13	160	△10
	居心伝	7	-	-	7	-	7	-	1	6	△1
	その他	17	1	5	13	△4	13	2	4	11	△2
小計	216	2	19	199	△17	199	5	19	185	△14	
合計	289	11	25	275	△14	275	12	22	265	△10	

【直営料飲店の出店及び退店の状況】

直営店の出店は新規出店が4店、加盟店からの譲受が2店、業態変更が1店で計7店でありました。退店は完全退店が1店、加盟店への譲渡が1店、業態変更が1店で計3店でありました。

	出店					退店				
	新規出店	FC加盟店 からの譲受	業態変更	計		完全退店	FC加盟店 への譲渡	社員独立	業態変更	計
酔虎伝	-	-	-	-	酔虎伝	-	-	-	-	-
八剣伝	1	1	1	3	八剣伝	1	1	-	-	2
居心伝	-	-	-	-	居心伝	-	-	-	-	-
その他	3	1	-	4	その他	-	-	-	1	1
計	4	2	1	7	計	1	1	-	1	3

【FC加盟店の出店及び退店の状況】

FC加盟店の出店は新規出店が2店、直営店からの譲受が1店、業態変更が2店で計5店でありました。退店は完全退店が15店、直営への譲渡が2店、業態変更が2店で計19店でありました。

	出店						退店			
	新規出店	直営店から の譲受	社員独立	業態変更	計		完全退店	直営店への 譲渡	業態変更	計
酔虎伝	-	-	-	-	-	酔虎伝	1	-	-	1
八剣伝	1	1	-	1	3	八剣伝	11	1	1	13
居心伝	-	-	-	-	-	居心伝	-	1	-	1
その他	1	-	-	1	2	その他	3	-	1	4
計	2	1	-	2	5	計	15	2	2	19

(2) 当期の財政状態の概況  
資産、負債及び純資産の状況

(単位：百万円)

	2025年3月期末	当事業年度	増減
資産の部	3,426	2,866	△560
負債の部	3,016	2,165	△851
純資産の部	410	701	291

当事業年度末における資産は、現金及び預金6億87百万円の減少、未収入金51百万円の増加、直営店舗の新規出店・改装等により有形固定資産が49百万円の増加等により、総資産が前事業年度末に比べ5億60百万円減少し、28億66百万円となりました。負債総額は、主に短期借入金の返済により7億11百万円の減少等により、前事業年度末に比べ8億51百万円減少し、21億65百万円となりました。純資産につきましては、主に資本剰余金3億54百万円の増加、配当金の支払23百万円等により2億91百万円増加し、7億1百万円となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況  
キャッシュ・フローの状況に関する分析

(単位：百万円)

項目	前事業年度	当事業年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	△82	△76
投資活動によるキャッシュ・フロー	△113	△137
財務活動によるキャッシュ・フロー	△224	△473
現金及び現金同等物の増減額	△420	△687
現金及び現金同等物の期末残高	2,116	1,429

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、営業活動によるキャッシュ・フローが76百万円の支出、投資活動によるキャッシュ・フローが1億37百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが4億73百万円の支出となったことにより、前事業年度末と比べて6億87百万円減少し、14億29百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、減少した資金は76百万円であります。これは主に税引前当期純損失47百万円の計上に加え、利息の支払29百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、減少した資金は1億37百万円であります。これは主に有形固定資産の取得による支出1億29百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、減少した資金は4億73百万円であります。これは主に借入金の返済による支出7億11百万円によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期
自己資本比率 (%)	16.1	1.7	10.3	12.0	24.5
時価ベースの自己資本比率 (%)	89.4	86.9	56.2	43.5	57.4
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (%)	-	-	-	-	-
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	-	-	-	-	-

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

1. 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しています。
2. キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しています。
3. 有利子負債は貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としています。

#### (4) 今後の見通し

今後の外食業界におきましては、原材料価格の上昇、人件費の増加及び消費者の節約志向の継続等により、引き続き厳しい経営環境が続くものと見込んでおります。

このような環境のもと、当社グループは、2027年3月期に向けた再成長のロードマップとして「超改革5」を掲げ、2025年6月に筆頭株主となった株式会社テンポスホールディングスの経営関与において、今一度、提供価値の本質を問い直し、強固な経営基盤の再構築に邁進いたします。

#### 改革の核心:日常・大衆・地域密着の徹底

これからの当社グループが目指す姿は、華美な流行を追う飲食店ではなく、もう一度原点に立ち返り地域住民の皆様へ愛され続ける「心の診療所」として「日常、大衆、地域密着」を軸に据えた業態改革を強力に推進します。お客様が気兼ねなく、週に何度も足を運べる「大衆」的な価格帯と親しみやすさを追求し、各地域のニーズに深く根ざした店舗運営を行うことで、競合他社には真似できない「心の通うサービス」を実現します。

#### 「超改革5」5つの柱

##### ① 既存店改革

組織の圧縮化を断行し、経営層が直接現場を指揮する体制へ移行します。現場主義によるメニュー改善と販促を徹底し、全店で既存店売上高103%の達成を必達目標とします。八剣伝では焼鳥のサイズを1.5倍にしてお値段据え置きのコストパフォーマンスを徹底し、餃子食堂マルケンでは、「どでか餃子」「手羽餃子」のお値打ちメニューなど、お客様にびっくりしていただける企画を打ち出し、リピーター増に繋げていきます。

##### ② 新業態・高収益モデルへの改革

月商600万円以上を安定的に創出できる強靱なモデルを育成します。居酒屋事業においては、総合居酒屋から、大衆専門酒場に転換していきます。具体的には、株式会社テンポスホールディングスの子会社のヤマトサカナ株式会社と協働した大衆魚酒場「ニューやまと」や、従来の「ハッケン酒場」を、どてカツを売りにした「大阪天王寺ハッケン酒場」に進化させるなど、大衆かつ専門性を高めた酒場にモデルチェンジしていきます。既に4月27日山口県に「大阪天王寺ハッケン酒場 周南久米店」、5月7日大阪市に「ニューやまと 谷町四丁目店」をリニューアルオープンいたしました。また新規事業においては、日常食の事業を開発していきます。具体的にはこちらも株式会社テンポスホールディングスの子会社の株式会社サンライズサービスと協働した「越後つけ麺どんどこ」を出店、展開してまいります。既に4月20日愛知県に「越後つけ麺どんどこ 一宮木曾川店」をオープンいたしました。いずれも、昼から営業する日常感と地域密着を大切に事業展開のテストを繰り返してまいります。

##### ③ 販管費の適正化

無駄なコスト見直しにより、年間8,000万円の固定費削減を目指します。一過性の削減ではなく、仕組み自体を効率化し、持続可能な筋肉質な組織を作ります。

##### ④ 商品・メニュー改革

顧客が「これを目当てに来る」と言える強力な目玉商品を開発します。特に今年度は商品開発の切り口を現場から提案しテストし展開していくという、現場参加型の商品企画を実施し、よりお客様目線で政策を行ってまいります。また、EC・外販事業を強化し、「どでか焼き鳥」の販売をスタートさせ、アマゾン、楽天、ふるさと納税等への出店も開始しており、マルシェオンラインショップの強化で実店舗以外の収益柱を構築いたします。

##### ⑤ 人材育成改革

店長やSVの教育を抜本的に強化し、次世代リーダーを育成するサイクルを確立します。株式会社テンポスホールディングスの持つ教育支援体制に参加する事で全社員の行動レベルが変わっていくと確信しております。また外国人材の即戦力化プログラムを導入し、現場の実行力を最大化します。

以上の施策を迅速かつ徹底的に実行し、次期の業績は、以下を見込んでおります。

売上高	5,000百万円	(前期比 4.9%増)
営業利益	107百万円	( — )
経常利益	103百万円	( — )
当期純利益	60百万円	( — )

(注) 上記の業績予想は本資料作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって記載内容と異なる可能性があります。業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに公表いたします。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で財務諸表を作成する方針であります。なお、国際会計基準の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,116,357	1,429,081
売掛金	292,320	297,139
商品及び製品	58,233	70,159
原材料及び貯蔵品	23,145	25,600
前払費用	38,410	41,506
未収入金	52,687	104,455
その他	7,009	6,026
貸倒引当金	△4,570	△4,479
流動資産合計	2,583,592	1,969,489
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	195,504	246,003
構築物(純額)	23	22
工具、器具及び備品(純額)	34,627	33,438
土地	149,366	149,366
有形固定資産合計	379,521	428,831
無形固定資産	58,483	39,881
投資その他の資産		
投資有価証券	32,523	41,718
出資金	40	40
長期貸付金	8,953	4,843
破産更生債権等	12,049	12,049
長期前払費用	2,614	8,898
繰延税金資産	11,753	16,284
差入保証金	300,679	296,202
その他	58,933	66,754
貸倒引当金	△22,212	△18,103
投資その他の資産合計	405,335	428,687
固定資産合計	843,340	897,400
資産合計	3,426,932	2,866,890

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	221,914	233,839
短期借入金	1,612,006	900,959
1年内返済予定の長期借入金	45,000	112,620
未払金	215,214	214,572
未払費用	3,626	2,375
未払法人税等	10,745	8,047
前受金	9,845	2,135
預り金	31,529	31,703
前受収益	14,929	15,239
契約負債	7,669	7,808
賞与引当金	17,253	9,513
資産除去債務	7,301	3,526
その他	23,048	35,440
流動負債合計	2,220,084	1,577,781
固定負債		
長期借入金	356,501	200,000
資産除去債務	97,733	99,207
長期預り保証金	261,878	240,430
その他	80,651	48,201
固定負債合計	796,764	587,838
負債合計	3,016,848	2,165,620
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金		
その他資本剰余金	699,573	1,053,573
資本剰余金合計	699,573	1,053,573
利益剰余金		
利益準備金	2,320	4,640
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	44,347	△26,466
利益剰余金合計	46,667	△21,826
自己株式	△453,393	△453,393
株主資本合計	392,848	678,354
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17,235	22,915
評価・換算差額等合計	17,235	22,915
純資産合計	410,083	701,269
負債純資産合計	3,426,932	2,866,890

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高	4,581,766	4,767,664
売上原価	1,792,271	1,870,411
売上総利益	2,789,494	2,897,253
販売費及び一般管理費	2,744,850	2,927,047
営業利益又は営業損失(△)	44,643	△29,793
営業外収益		
受取利息	1,258	2,684
受取配当金	837	1,161
受取家賃	9,840	9,840
解約返戻金	746	554
賃貸収入	5,064	4,770
受取協力金	1,000	-
受取保険料	4,740	837
その他	7,060	10,602
営業外収益合計	30,547	30,450
営業外費用		
支払利息	35,346	29,379
貸倒引当金繰入額	6,510	-
損害賠償金	205	113
株式交付費	-	4,242
その他	391	821
営業外費用合計	42,455	34,558
経常利益又は経常損失(△)	32,736	△33,901
特別利益		
固定資産売却益	7,472	3,230
資産除去債務戻入益	4,392	-
特別利益合計	11,865	3,230
特別損失		
固定資産除却損	30	233
固定資産売却損	-	1,157
減損損失	-	15,509
賃貸借契約解約損	1,760	-
特別損失合計	1,790	16,900
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	42,811	△47,571
法人税、住民税及び事業税	8,333	5,767
法人税等調整額	△476	△8,044
法人税等合計	7,856	△2,276
当期純利益又は当期純損失(△)	34,955	△45,294

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	100,000	-	699,573	699,573	-	34,912	34,912
当期変動額							
新株の発行							
剰余金の配当						△23,200	△23,200
利益準備金の積立					2,320	△2,320	-
減資							
欠損填補							
当期純利益又は当期純損失(△)						34,955	34,955
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	-	-	2,320	9,435	11,755
当期末残高	100,000	-	699,573	699,573	2,320	44,347	46,667

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△453,386	381,099	13,000	13,000	394,099
当期変動額					
新株の発行		-			-
剰余金の配当		△23,200			△23,200
利益準備金の積立		-			-
減資		-			-
欠損填補		-			-
当期純利益又は当期純損失(△)		34,955			34,955
自己株式の取得	△6	△6			△6
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			4,235	4,235	4,235
当期変動額合計	△6	11,748	4,235	4,235	15,983
当期末残高	△453,393	392,848	17,235	17,235	410,083

当事業年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	100,000	-	699,573	699,573	2,320	44,347	46,667
当期変動額							
新株の発行	177,000	177,000		177,000			
剰余金の配当						△23,200	△23,200
利益準備金の積立					2,320	△2,320	-
減資	△177,000	△177,000	354,000	177,000			
欠損填補							
当期純利益又は当期純損失(△)						△45,294	△45,294
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	354,000	354,000	2,320	△70,814	△68,494
当期末残高	100,000	-	1,053,573	1,053,573	4,640	△26,466	△21,826

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△453,393	392,848	17,235	17,235	410,083
当期変動額					
新株の発行		354,000			354,000
剰余金の配当		△23,200			△23,200
利益準備金の積立		-			-
減資					
欠損填補					
当期純利益又は当期純損失(△)		△45,294			△45,294
自己株式の取得					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			5,680	5,680	5,680
当期変動額合計	-	285,505	5,680	5,680	291,186
当期末残高	△453,393	678,354	22,915	22,915	701,269

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	42,811	△47,571
減価償却費	66,146	75,656
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,386	△7,740
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4,037	△4,201
受取利息及び受取配当金	△2,095	△3,845
支払利息	35,346	29,379
株式交付費	-	4,242
固定資産売却損益(△は益)	△7,472	△2,073
固定資産除却損	30	233
資産除去債務戻入益	△4,392	-
減損損失	-	15,509
売上債権の増減額(△は増加)	△334	△5,917
棚卸資産の増減額(△は増加)	△12,415	△14,381
仕入債務の増減額(△は減少)	△167,048	11,925
その他の流動資産の増減額(△は増加)	39,412	△41,492
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△33,602	4,919
その他	△17,018	△57,282
小計	△54,210	△42,638
利息及び配当金の受取額	1,860	3,624
利息の支払額	△36,079	△29,263
法人税等の支払額	-	△8,226
法人税等の還付額	5,600	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	△82,827	△76,503
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
差入保証金の差入による支出	△11,093	△14,315
差入保証金の回収による収入	17,455	4,343
有形固定資産の取得による支出	△97,749	△129,020
有形固定資産の売却による収入	7,472	10,961
無形固定資産の取得による支出	△20,909	-
資産除去債務の履行による支出	△303	-
その他	△7,981	△9,370
投資活動によるキャッシュ・フロー	△113,108	△137,401
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△179,106	△711,047
長期借入金の返済による支出	△22,388	△88,881
株式の発行による収入	-	349,757
配当金の支払額	△23,200	△23,200
自己株式の取得による支出	△6	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△224,700	△473,370
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△420,636	△687,275
現金及び現金同等物の期首残高	2,536,994	2,116,357
現金及び現金同等物の期末残高	2,116,357	1,429,092

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり純資産額 12円07銭 1株当たり当期純利益金額 1円46銭	1株当たり純資産額 38円70銭 1株当たり当期純損失金額 △7円13銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
当期純利益金額又は当期純損失金額(△)(千円)	34,955	△45,294
普通株主に帰属しない金額(千円)	23,200	23,200
普通株式に係る当期純利益金額又は 当期純損失(△)(千円)	11,755	△68,494
期中平均株式数(千株)	8,028	9,611

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
純資産の額(千円)	410,083	701,269
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	313,200	313,200
(うち優先株式払込金額)(千円)	290,000	290,000
(うち未払優先配当額)(千円)	23,200	23,200
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	96,883	388,069
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(千株)	8,028	10,028